

2011 年 6 月 21 日 公の精神でつながるコミュニティー「一志会」の第 4 回会合が開催されました。

昨年 12 月に発足した「一志会」は、企業経営者が「公の精神」を持って積極的に社会との関わっていくことを目指した新しい形の会員制の”コミュニティー”です。この趣旨に賛同した主に大企業の経営者が各分野から参加されており、6 月 21 日に第 4 回の会合を開催しました。



関西大学教授 白石真澄 氏

今回は、冒頭、一柳から最近の政治経済社会情勢についての認識、そしてリーダー論などについて話しをした後、関西大学の白石真澄教授をゲストにお迎えし、「震災後の日本をどう考える」というテーマで講演していただきました。白石教授からは、今回の大震災の全貌を踏まえて、現場の混乱ぶりとスピード感の乏しく現地の実情をそぐわない政府の対応等を指摘した上で、今回の震災で何が問題であったか、今回の被災から何を学ぶべきか、を明らかにすることが必要であり、また「平時で機能しないものは有事でも機能しない」ことを認識して、日頃から民の力を活用した地域コミュニティーづくりの必要であることや、企業を含む社会システム・機能の多重化・分散化が重要であることなど、幅広い視点から問題提起をしていただきました。これを受けて、メンバーからは、「自社も被災したが、災害基金を設けて備蓄していた救援物資で被災地支援に当たった」「震度 5 以上の地震が発生すると自動的に従業員・家族の安否確認を行うメールシステムが役立った」などと発表があり、企業の危機管理対応についての話し合いが行われました。

この後、新規メンバーの紹介に続き交流タイムとなりましたが、例会も 4 回目となってメンバー間の繋がりが深まり、ゲストも交えた和気藹々とした話し合いの輪がいくつもできて予定時間を過ぎても暫く懇談が続きました。

